

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を！

# ハロー フランス



ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2016年 秋号(季刊) 第141号

## 富士見市国際交流フォーラム2016に参加しました

—— キラリ☆ふじみ 9月24日(土) ——

「マストラさん？ あまり聞かないお名まえね。お国はウズベキスタンですって。知らない国ね」

「お嬢ちゃんかわいい！こんな家族的な雰囲気って今までになかったじゃないかしら」

隣のお子さま連れの家族の声がとても新鮮に聞こえた「富士見市国際交流フォーラム2016—世界へのとびら」でのシーンです。

9月24日(土曜日)毎年富士見市で開催のビッグなイベントにFICECも全力投球、外国人の主張、遊びのコーナー、展示コーナー、司会と多くの場面で会場を盛り上げてきました。その一コマが外国人の主張で登場のマストラさん親子です。イクラさんと友理さんの司会も大好評でした。

遊びのコーナーでは、お手玉遊びのようなフィリピンの「ジャクストーン」、蹴鞠のような韓国の「チェギチャギ」と参加者にとっては馴染みの少ない場面で用意されました。

「外国語でしおりを作ろうコーナー」では、スリランカとパキスタンの文字で、参加者の名まえを書いてプレゼントです。ここでも文字の世界の広さに驚き、素敵な記念になると大喜びの親子も見られました。

FICECからは、ニーランティさん、サルマ・サターールさん、ジュリエッタさん、メラニーさん、ヤマザキさん、イクラさんなど総勢20数名が加わり私たち団体の懐の大きさをお見せできました。今回の参加で思うこと、それは“家族みんなで楽しむ”をコンセプトにした新しい「富士見市国際交流フォーラム」の幕開けを予感するイベントとなりました。



写真上左／外国人の主張 上右／司会 下左／外国語でしおりを作ろうコーナー 下右／遊びのコーナー





## 七夕祭りに出店 大盛況！！

8月 上福岡七夕まつり

ふじみ野市の「七夕祭り」に水風船の店(ヨーヨー釣り)を出しました。出店はこれで4回目です。今までの運営は、FICECスタッフやボランティアが中心でした。子どもクラブからは毎年数人の高校生が誕生します。彼らの力で店を運営できないかと考えていましたが、今年実現することが出来ました。5カ国6人の高校生が手伝いに来ました。準備から当日の運搬、運営までみんなで分担し、呼び込み、お客の対応、水風船作り等、自分に合った仕事を探してみんなで頑張りました。

お店には、近所の子供達が親の手を引っ張って遊びに来てくれました。かわいいお客さんで店

は一杯でした。そんな中には国際子どもクラブに来ている小学生達もおおり、日本の生活に溶け込んだ生徒達の様子が見られ嬉しかったです。



## 赤点取っちゃった

高校進学した6人の仲間たちの一学期

小中学校の教育を母国で受け、FICECで受験の勉強をして定時制高校に進学したA君が、1学期の様子を報告に来ました。クラスの中で、一番日本語が下手な事、漢字を山のように書いて覚えている事、授業内容がよく理解できない事など。

今年FICECから送り出した6人の高校生のほとんどが同じ状況にあります。彼らが授業についていけないのは、日本語が不十分という理由

だけではありません。日本でなら小学校で習うはずの基礎学力が、ほとんど身につけていません。多くのアジアや南米地域の基礎教育の内容は想像以上に低いです。

学習以外でも、家庭が経済難になって授業料が払えないことにならないか、定期代は払えているのか、アルバイトはどうするか等、私たちの心配は尽きません。



## マイナス6ってどういう意味？

高校進学を目指す2人の今

平日には、二人の15歳の生徒が高校受験を目指して勉強に来ています。二人とも中学3年の2学期に日本の学校に転入しましたが、繰り下がり引き算、かけ算が出来ません。時々指を使って計算しています。マイナスの概念が理解できず、まだ数学の勉強に入れません。知っている世界の国は、母国の周りの国だけです。当然、高校の授業にはついていけないでしょう。

毎日、学習指導していると、高校受験の勉強をするより小中学校程度の基礎学力をつける方が、彼らの将来には役に立つ気がします。

彼ら一人一人が自分に合った道を見つけ、希望をもって歩んで行ってくれるように願うと共に、外国ルーツの子どもの日本語や基礎学習を学べる場所が増えることを望みます。

高校はすごく楽しくて3年間あっという間だった。また戻りたいぐらい。

サターンさん

パキスタンの首都イスラマバード近郊の町出身。両親と、本人を筆頭に妹2人弟4人の7人の兄弟の9人家族。5歳の時来日した。取材当時21歳。

父親が最初に来て、その後家族で来日した。いきなり鶴瀬の小学1年に入れられ、日本語が分からず大変だった。FICECの森田さんがボランティアで日本語を教えに来ていて、家も近かったので森田さんの家で宿題をしたり、母親に言えないことを相談したりした。小学校ではなかなか馴染めなかった。1歳違いで学年が二つ離れている妹はすぐに学校に馴染めたのだけど。

小学校では「近寄らないで」とか言われていじめられた。6年の時引越して、転校先ではみんな友達になってくれたが、仲の良かった子が中学で引越してから、部活の事がきっかけになってクラスでも「なんかちょっと」と思われるようになり、中2の時に本当に嫌になってパキスタンに帰りたくて母親に言った。自分のことで心配させたくないかったので本当のことは言わなかった。日本に来る前は結構やんちゃで、あんまり笑わない子だったと聞いた。昔の写真を見返しても笑っている写真が1枚もない。両親は私を笑わすのが大変だったらしい。不思議な子だった。

14歳でパキスタンに戻り祖母の家に住んだ。母の兄弟が10人、一番下の叔母は三つ違いで、お姉さんみたいな感じだった。叔父はみんな背が高くて、一人帰ってきてはひっぱられたり、一人帰ってきてはつねられたり、追いかけられたり、愛情表現が豊かで楽しかった。彼らと過ごしたことで吹っ切れるきっかけになり、2年したら両親にも長い間会っていないので日本に帰ろうと思うようになった。帰国したら、同級生たちは高校1年生になっていた。

中学卒業していないので、認定試験を受けることになり、FICECの戸塚先生(男性)に教えてもらいながら毎日必死で勉強した。自分では覚えてないが、その頃は急に泣き出したり暴れたりして、気持ちが大不安定だったらしい。この前、そのとき以来初めて戸塚先生に再会してお互いに泣いてしまった。

その後、無事高校に合格した。前みたいなのは嫌なので、自分からがんばって話しかけようと思った。だから高校はすごく楽しくて3年間あっという間だった。



また戻りたいぐらい。今でもクラスの同窓会をする。

家では両親とはウルドゥー語、兄弟はウルドゥー語で話しかけても日本語で返事が返ってくる。昔は自分も全然話せなかったけど、今は叔母さんから電話かかってくると冗談言ったりできる。14歳で向こうに行った時は片言だけで、同じ言葉しか言えないので笑われたが、1か月ぐらいしたら話せるようになった。

マララさんもパキスタンだけど、アフガニスタン寄りの地域で、まだ女性には教育が必要ないという考え。首都近郊では、その考えは変えようという風潮になってきていて、テレビでも宣伝している。叔母もヘジャブという巻き物をして学校に行っていた。あれはすごく楽！(笑)普通の外出ぐらいなら、ヘジャブの中はどんな格好をしていてもいい。夏用と冬用もあるけど、夏はやっぱり暑い。息苦しいし眼鏡も曇って大変。場所によって隠す度合いが違って、手袋も靴下もしないといけない地域もあれば、目にレースをかけないといけない地域もある。この間祖母が日本に来たけど、祖母は子どもが大好きなのに、ヘジャブをしていたので怖がられてしまった。

FICECの活動で学校に行つて国際理解の授業をするのが楽しい。一番の思い出は、母を手伝いパキスタン料理を作ったこと。料理が好きで、炊き込みご飯や肉じゃが、チキン南蛮などの日本料理やタイのガパオライスも作ったりする。豚肉は食べられないので、チキンに変えて作る。夢は大学で調理を勉強すること。

本当に石井さんや戸塚先生はみんな家族のような感じでFICECはすごく大事な場所。ここがなかったら本当に高校に行くことができていたか分からない。色々お世話になった恩返しをしたい。インタビュー:加藤・小林  
写真:本多



### スタッフ紹介

## 「活動内容は幅広く、訪れる人のルーツも様々」 木村 不二雄

今年、4月からお世話になっています。月曜から金曜まで事務所で庶務的な仕事をしています。

私が、F I C E Cのお世話になったきっかけは、昨年の秋、以前からF I C E Cでボランティアをしている友人に、今、庶務担当のボランティアがいないので、興味があったら顔を出しませんか。と言われ、当時、勤務先が事務所に近かったこともあり、顔を出したのが始まりでした。

F I C E Cの活動内容もよく分からず、関わってから半年になりますが、実は、私、日本語以外は話せません。ですから、電話の向こうから聞こえてくる言葉で、すぐさま優秀なスタッフに代わってしまい

ます。まさに頼りない事務員であります。

F I C E Cの活動内容は幅広くまた、事務所を訪れる人のルーツも様々です。たった半年ではありますが、多くの事を学びまた毎日新たな発見の日々です。

そんななか、毎日のように、埼玉県内の市町村から、相談・翻訳・通訳・同行支援などの依頼が多くあることに驚いています。

初めての経験、

その1.入国管理局へのビザの申請の同行。

その2.日本語の勉強の補助。

いまは、先輩スタッフの姿をみながら日々をおくっています。



## 「ぜひ一度遊びに来てください。」 台湾・寺村璧如

台湾は人口2,400万人、気候は北部と中部が亜熱帯、南部が熱帯です。米作りは二期作以上、南部は三期作でお米は豊富です。

果物もたくさんあります。マンゴー、ライチ、パイナップル、桃、レンプ、文旦、ドリアン、30~40種類あります。台湾茶も有名で、人気は凍頂烏龍茶、鉄観音、東方美人茶等があります。

各国から沢山の観光客が訪れ、定番スポットと言えば、国立故宮博物館です。世界四大博物館のひとつで、館内の一番人気は、翡翠で作られた「翠玉白菜」です。館内にはおよそ70万点近くの収蔵品があります。常時展示している作品は6,000~8,000点あります。アート好きな方は是非立ち寄る事をお勧めします。

台北101高層ビル(台北国際金融センター)は高さ509.2m、地上101階、地下5階からなり、名前はこれに由来しています。2004年の完成当時は、世界最高層ビルでしたが、今は世界第4位、アジア第3位の高層ビルです。

台湾に行ったら絶対食べたい人気のお勧めは、小籠包です。中はアツアツの肉汁が溢



れ出すほどたっぷり入っており、とってもジューシーです。他にもエビ、カニみそ入りの小籠包もあり、いろいろな味が楽しめます。台湾はスイーツも充実しています。王道は刨冰(ツァーピン)。その中でマンゴーが山盛りに乗せられたマン

ゴーかき氷は見た目も味も大満足。他にもいろいろトッピングが出来ます。そしてタロイモを甘く煮た「芋頭甜湯」。また台湾の伝統的スイーツである「豆花」(トウファー)は豆乳で出来ていて、プリンのような食感で、いろいろな味を楽しむことが出来ます。人気の土産はパイナップルケーキ(鳳梨酥)で定番中の定番です。パイナップルジャムと、バターで作った餡をクッキー生地ので包んで焼いたものです。

独特の酸味と粘りつけが美味しいです。外側はサクサクふわふわ不思議な食感です。

以上台湾のいろいろを簡単に紹介しました。是非一度、台湾に遊びに来てください。



## ふじみの国際交流センターを応援しています

### 「幸せな出会い」

今から30数年前、子供会育成会で活躍の石井ナナエさんと小熊千寿子さんと私の三人は、同期に公民館運営審議会委員を承りました。初対面から意気投合した私たちは、毎月の委員会が待ち遠しいほど社会教育や内外の話題、その時々のお出来事について発展的に話し合ったものです。そして公民館運営審議会委員会の有意義な活動を多くの方に知っていただくために「ザ・公運審」を発行、誰でも利用しやすい公民館を目指して、見識ある委員長さんのもと、和気あいあい議論を重ねました。今でもあの頃のエネルギーは脈々と続いています。

当時からナナエさんの秘めた情熱、物事に対する細やかさや発想の豊かさに感心しておりました。その後、信念を持ってふじみの国際交流センターを発足させ、相談者から次々寄せられる難題に親身になって即応す

### 村山光代さん

る行動力には敬服するばかりです。

長年にわたるその実績が認められて、今までに数々の表彰を受けられ、昨年は「読売教育賞」「埼玉教育ふれあい賞」を受賞されたことを、心からお喜び申し上げます。

私たちは「インフォメーションふじみの」「ハローフレンズ」「総会資料」などから様々な知識を得、多くのことを学ばせていただいています。

常にすてきなスタッフに囲まれているのはナナエさんのお人柄でしょう。

スタッフの皆様もこれからも健康に十分留意され、ふじみの国際交流センターのキーワード「多文化が未来を拓く」に向けて、希望を持ってご活躍ください。

国際ソロプチミストを通しての交流も15年と深まり、大変うれしく思っております。今後とも、よろしく願いいたします。

## 見送りの3振より空振りの3振 パートⅡ 石井ナナエ

〇月〇日

7月7日にごくんと膝を折って歩けなくなっから三月が過ぎた。脊椎間狭窄症と診断され、スタッフ皆に心配してもらい、迷惑をかけ、送り迎えしてもらいながらセンターには通っていた。薄皮をはぐように徐々に良くなってはいるのだが、その皮の薄いこと薄いこと。毎朝仏壇に水やご飯を上げながら「もう少し皮を厚くしてください」と神仏にお願いしている。

それでも左足が前に出るようになったといっは喜び、足の爪が切れるようになったといっは一人で歓声を上げている。人間の欲望とは、突き詰めると、ほんの小さなことなのかもしれない。この後は、足を引きずりながらも、ゆっくり歩きでも何でもよいから、70になっても80になってもセンターに通って生活相談をしたいと、わがままなことを願っている今日この頃である。

〇月〇日

センターでの私のメイン活動は生活相談である。夫婦仲が悪くて悩んでいる人が来ると、自分のことは棚に上げて「旦那さんとは仲良くしなければだめ」と説教し、「家事・育児を喜んでする

ように」と諭す。

一番苦手なジャンルは難民。「難民はFICECの分野ではない」と見て見ぬふりをしていたのだが、そうも言っていられなくなった。最近は週に1回ぐりの割合で難民申請中の、いわゆる就労不可の「特定活動ビザ」を持った人たちが相談に来る。紛争や迫害によって国を追われたシリアや中東の人ではなく、日本で生活をしていながらストラや離婚によって職を失ない生活困窮になった人や、アフリカなどの貧困国から国を脱してきた経済移民が多い。観光ビザで日本に来て、在留期間が切れて難民申請をしている人もいる。

難民申請中は生活を保障するために1人1か月約8万5千円の生活費・住居費・医療費が支給され、在留資格を失った場合も支給対象となる。今日相談に来た難民申請中のインド人夫婦も、2人の子どもはすでに富士見市内の小学校に通っていて国民健康保険証も持っていた。子供の修学旅行費は毎月支給される子ども手当で支払えるという。「今は就労不可のビザだけど、次回は就労が許可されると思う。神様をお願いしたから」と明るく笑っている。難民申請の制度がどうなっているのかを本気で勉強しなければと思った。

# FICECのHPとFacebookを紹介します

みなさんはご覧になったことがありますか？  
 FICECのHP (<http://www.ficec.jp>)と、  
 Facebook (<https://www.facebook.com/ficecjp/>).  
 まだの方は一度訪問してくださいね。

お問い合わせ  
 フォームはこちら

地図と近くの駐  
 車場案内(手前の  
 駐車場には止め  
 られません)

日本語、やさしいに  
 ほんご、中国語、韓国  
 語、英語、スペイン  
 語、ポルトガル語、  
 フィリピン語で案内  
 があるページです。

こちらにあるフォー  
 ムメールから、ボラン  
 ティア及び会員の申  
 し込みができます。

ミッション、活動の  
 内容(写真入りで7か国  
 語+やさしいにほん  
 ごで紹介)・軌跡、定  
 款、など。  
 視察・研修・インター  
 ンシップ受入れはこ  
 ちらのフォームから。

出版物の購入や、  
 “ハローフレンズ”  
 のバックナン  
 バーが読めます。

FICECのフェイス  
 ブックはここから  
 も見られます。  
 この囲みの中を  
 クリックすると  
 フェイスブック  
 のページ(左下参  
 照)に飛ぶことが  
 できます。

FICECの各事業  
 を応援してくだ  
 ざるサポーター  
 を募集していま  
 す。ご支援お願  
 いできると嬉し  
 いです。

東上線沿線の日  
 本語教室ガイド  
 (pdf)。お近くの  
 日本語教室を聞  
 かれたらこれを  
 ご利用ください。

FICECのフェイスブック  
 です。カバー写真は日本語教  
 室の風景です。  
 こちらの「いいね！」を押  
 していただくと、ご自身の  
 フェイスブックでFICECの  
 新しい記事をご覧になれま  
 す。

写真下の「いいね！」、  
 「シェアする」を押してい  
 ただけると、とても励みにな  
 ります。

次のページでは、フェイス  
 ブックからの一部のニュー  
 スをとりあげてご紹介して  
 います。



## 上福岡駅西口からFICECまでの道順

写真と矢印で作成しました。徒歩5分です。Facebookページ左のバーの写真の文字をクリックして、アクセス(ACCESS)から全部を見ることができます。

上福岡駅、改札を出たら  
左(西口)へ  
Kami Fukuoka Station  
上福岡駅



交番の前を通る  
Pass in front of  
the police station



りそな銀行の前をまっすぐ進む  
In front of Risona Bank, go straight or continue walking  
直走, 途经りそな銀行

## 日本に暮らす外国人女性の現状…

8月9日、外務省領事局外国人課の方お二人が、来所しました。

平成28年度「外国人の受入れと社会統合のための国際ワークショップ」に向けて、日本で暮らす外国人女性の現状について聞き取りを行いました。

生活相談、翻訳・通訳、国際子どもクラブ、多言語情報、日本語教室に関わっているスタッフ9名が、それぞれの活動について話をしました。



## インフォメーションふじみの企画会議

次回12月発行の「インフォメーションふじみの」の企画会議がもうはじまっています。日本に暮らす外国の方が必要としている情報はなんなのかを話し合っています。「インフォメーションふじみの」は、企画から発行までをスタッフとボランティアで行っている多言語情報誌です。サポーターも募集しています！  
<http://www.ficec.jp/supporter/supporters.html>



## フィリピンとベトナムのいただきもの

フィリピンの方から、「SWEET TAMARIND」をもらいました。堅いカラの中に、柔らかい実がありました。種もあります。スタッフ全員がはじめて見ました。ねっとりして味は甘かったです。甘くなるまでには時間がかかるそうです。このTAMARINDは、SINIGANG料理(すっぱいスープ)を作る時の味付けに使われるそうです。



ベトナムの方からの差し入れのコーヒーです。おいしくいただきました。



センターの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

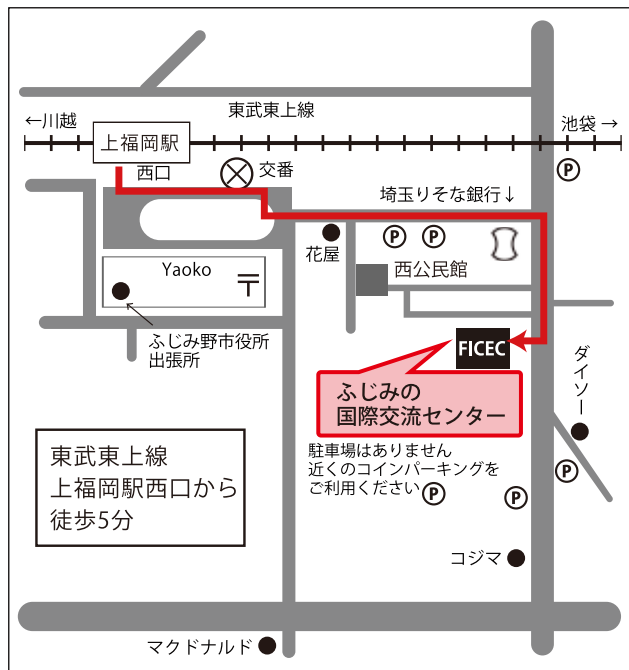
郵便振替口座: 00110-0-369511  
 口座名: ふじみの国際交流センター

**外国人生活相談 無料**

月曜日～金曜日 10:00～16:00  
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
 センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人  
**ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291  
 生活相談専用電話 049-269-6450

**ご寄付をいただいた方々**  
 ご支援ありがとうございます

●2015年7月1日～2016年10月30日 (50音順・敬称略)  
 秋本ノエミ、足立中3年D組、新井順子、新井節、新井洋子、新井良治、安部幸枝、安銀柱、石塚雄康、石山達也、イスマイロワマストラホン、伊藤真弓、板倉浩子、市川美緒、上原美樹、遠藤慧子、尾浦与子、大澤エミリー、大澤さよ、大室昭浩、小熊一雄、葛西敦子、加藤由里子、金沢国勝、金田康好、神田順子、木場ひろみ、木村澄江、久野弓枝、樟山直美、熊谷洋興、栗嶋三千代、小林暁美、駒形一夫、近藤知代、酒井有香、佐竹裕子、佐藤弘康、佐藤義治、佐藤光江、塩野輝之、芝山喜己子、島田道子、島田敏郎、ジェニファーラグリーン、ジョージチャ、江科、鈴木譲二、関ニーランテイ、高橋郁子、滝澤淳子、竹内直江、武田和子、武田早希、立麻肇子、田中つや子、チャミラー、チャミンダ、鄭玄淑、坪田幹男、出口優子、寺村璧如、戸塚成子、中島恵津子、中村禎作、萩原千代子、早瀬佐恵子、彦由章、平野美千子、藤島伸子、星野秋梅、本多香、松本佑子、向吉孝子、村山光代、茂木久美子、森田信子、八木一之、矢澤美紀、山内典子、山口勇、吉井ジュリエッタ、(株)吉岡、吉永義仁、邱皇親、邱亜蘭、劉圭霖、集英社、東入間地区遊技業防犯協力会、立麻医院、イオン(株)大井店、富士見市国際交流協会

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター		
サービス案内		
外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円 (材料費別途)
日本人	多文化共生講座	20,000円+交通費
講師派遣	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に 応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ピザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日
○印刷機、コピー機が使えます		

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。